

高規格幹線道路

■ 上信越自動車道

上信越自動車道は、新たな地域間交流の創出や観光振興に寄与する道路として平成11年に全線が開通しました。

しかし、信濃町IC～上越JCTは暫定2車線となっているため、行楽期における慢性的な交通渋滞や、正面衝突等の重大な死傷事故が発生しており、特に長野・新潟県境付近は日本有数の豪雪地帯であることから、冬期間における安全で定時性の高い交通の確保のため4車線化が切望されています。

平成24年4月20日に国土交通省は、4車線化事業の実施を許可し、現在、東日本高速道路株式会社により平成30年度の完成を目指し工事が行われています。



信濃町～妙高市 れいめい橋

■ 中部横断自動車道

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点とし、山梨県甲斐市を經由し、小諸市に至る延長約132km(うち県内約45km)の高規格幹線道路で、国土開発幹線自動車道として整備されます。

北陸・上信越・中央・新東名・東名の各自動車道を相互に連絡し日本海及び太平洋の臨海部と内陸部の物流や広域的観光ゾーンの開発等、沿線地域の産業経済の振興に寄与することが期待されています。

国土交通省が事業主体となり、平成23年3月に佐久南IC～佐久小諸JCTが、平成30年4月に八千穂高原IC～佐久南ICが開通し、沿線に様々なストック効果を発揮しています。唯一のミッシングリンクとして残る長坂～八千穂間は、国により環境アセスメントに向けた準備が行われています。



佐久南IC付近

■ 三遠南信自動車道

三遠南信自動車道は、飯田市を起点として、静岡県浜松市に至る延長約100km(うち県内約50km)の高規格幹線道路で、国道474号の自動車専用道路として整備されています。

中央・新東名・東名の各自動車道を相互に連絡し広域ネットワークを形成し、南信州地域と三河・遠州地域との時間距離を大幅に短縮することで、新たな観光資源の活用、産業の振興等、古くから続く県境を越えた広域的な経済・文化圏の再生に大きく寄与するものと期待されています。

現在、飯橋道路及び青崩峠道路の整備が、国により行われています。飯田山本IC～天龍峡IC間が平成20年4月に、龍江IC～飯田上久堅・喬木富田ICが平成30年3月に開通し、残る区間でも全線にわたり工事が行われており、このうち天龍峡IC～龍江IC間は平成31年度の開通予定が示されています。



飯田上久堅・喬木富田IC付近

■ 中部縦貫自動車道

中部縦貫自動車道は、松本を起点として、岐阜県高山市を經由し福井県福井市に至る延長約160km(うち県内約35km)の高規格幹線道路で、国道158号の自動車専用道路として整備されています。

長野・東海北陸・北陸の各自動車道を相互に連絡して、広域ネットワークを形成するとともに、観光振興や物流、災害時の代替性の確保などに寄与する道路として期待されています。

現在、松本波田道路の整備が、国により行われています。



松本波田道路の予定ルート